

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1272201417
法人名	フロック有限会社
事業所名	グループホーム光ヶ丘の里
訪問調査日	平成 20 年 11 月 11 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 17 日
評価機関名	株式会社アミュレット

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月20日～平成20年12月16日

【評価実施概要】

事業所番号	1272201417		
法人名	フロック有限会社		
事業所名	グループホーム光ヶ丘の里		
所在地 (電話番号)	千葉県柏市光ヶ丘2-25-41		(電話) 04-7160-0025
評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成20年11月11日	評価確定日	平成20年12月17日

【情報提供票より】(平成20年 10月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤 6 人, 非常勤 16 人, 常勤換算 9.3 人	

(2) 建物概要

建物形態	単独型	新築
建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	階 ~ 1・2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000～70,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有(70,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(140,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり (1,000円)		

(4) 利用者の概要(10月 31日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名
要介護3	7 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82.8 歳	最低 76 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新松戸中央総合病院・寺田歯科医院・平野医院・介護老人保健施設ナーシングプラザ流山
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「家族にしかできないこと、スタッフは家族の一員としてその人らしい暮らしを見守ります」を理念として掲げ、理念の実現に向け日々取り組まれている。ホーム内は、利用者も職員も明るく、常に活気にあふれている。この一年間、職員のコアメンバーの入れ替わりはほとんど無く、利用者とも馴染みの関係が築かれている。また、戸外での活動も充実しており、毎日の散歩や買い物のほか、外食会やピクニック、車での日帰り旅行など、外出行事を盛んに実施しており、ホーム外における活動を充実させることで、利用者の生活の幅を広げている。今年度は、踊りや習字、オカリナ演奏のボランティアの方が来所されたほか、町会の運動会にも出かけるなど地域行事への参加も回り地元の人々との交流も充実している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前年度の外部評価で指摘された事項については改善に向け前向きに取り組む、地域交流の充実など確実な成果を上げている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今年度の自己評価で気付いた改善箇所については、職員間で認識し、改善に向け前向きに取り組む姿勢がうかがえた。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は年間3回実施されている。会議ではホームでの取り組みの報告や、参加者との意見交換を行い、今年度においては地域包括支援センターが仲介に入り、保育園との交流の実現に向け取り組まれるなど、参加者からの情報を基にサービス向上につなげている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご家族からの意見や要望、苦情等については、面会時に直接聞き取り、意見が出た際には、ミーティング時に職員間で話し合う場を設けている。また、年に一度家族会を開催し、ご家族同士意見交換できる機会を定期的に設けている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	今年度は、ホーム内に踊りや習字、オカリナ演奏のボランティアの方が来所されたほか、小学校の先生の異業種体験の受け入れなど幅広く実施された、また、町会の運動会にも出かけるなど地域行事への参加も回り地元の人々との交流の充実に取り組まれた。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念として、「家族にしかできないこと、スタッフは家族の一員としてその人らしい暮らしを見守ります」と掲げ、利用者がその人らしく暮らし続けることを支えていくために、独自の理念を掲げ日々取り組まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向けた取り組みとして、ホーム内3か所に運営理念を掲示するほか、毎月のスタッフミーティング時において、理念の共有が図られている。新人職員へは、入社時に説明し理解が深まるよう取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年度は、踊りや習字、オカリナ演奏のボランティアの方が来所されたほか、小学校の先生の異業種体験の実習受け入れなど幅広く実施された、また、町会の運動会にも出かけるなど地域行事への参加も図り地元の人々との交流の充実に取り組まれた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の外部評価で指摘された事項については改善に向け前向きに取り組む、地域交流の充実など成果を上げている。また、今年度の評価においても自己評価で気付いた改善箇所については職員間で認識し、改善に向け前向きに取り組む姿勢がうかがえた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年間3回実施されている。会議ではホームでの取り組みの報告や、参加者との意見交換を行い、今年度においては地域包括支援センターが仲介に入り、保育園との交流の実現に向け取り組まれるなど、参加者からの情報を基にサービス向上につなげている。		

グループホーム光ヶ丘の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者との連携については、運営推進会議以外においても、市内グループホーム連絡会の場において担当者から指導を受けたりするなど、昨年に引き続き、日頃から連携を図り、サービスの質の向上に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族への報告については、年に一度家族会を開催し、利用者の状況についてお伝えしている。緊急時には電話にて報告するほか、面会時や必要に応じて書面を郵送するなど、適宜利用者の状態について伝えている。また、「光ヶ丘の里だより」を年2回発行しホームでの活動状況をお伝えしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見や要望、苦情等については、面会時に直接聞き取り、意見が出た際には、ミーティング時に職員間で話し合う場を設けている。また、年に一度家族会を開催し、ご家族同士意見交換できる機会を定期的に設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を必要最小限に抑えるために、管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを大切するほか、職員との面談を通じ、悩みや不満を聞き取り、早期に解決できるよう取り組まれている。職員が働きやすい環境を整えることで、離職を最小限に抑え、利用者へのダメージを防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上を図るために、グループホーム連絡会が主催する研修に参加するほか、毎月のミーティングで職員が疑問に感じている点や感染症、ケアプランの勉強会等の実施など、内外の研修を通じ質の向上に努めている。	○	現在ホームでは、センター方式を活用してのアセスメントに取り組まれている。ホームでは今後、さらに職員の理解を深めるための取り組みを検討していることから、勉強会等において職員の理解がさらに深まることに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流については、市内グループホーム連絡会主催による研修会や勉強会、交流会に管理者及び職員が積極的に参加をし他事業所との交流を深めている。また、他事業所への見学や職員交流会も実施しており、同業者との交流を通じサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、体験入所の実施や見学の際には可能な限り本人にも来所頂き、ホームの雰囲気が伝わるよう取り組まれている。また、一度の見学のみでなく、何度かホームに来所頂くなど、徐々にホームに慣れてもらえるよう、利用者のペースに合わせた対応を図っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホーム内は、利用者も職員も明るく、常に活気にあふれている。この一年間、職員のコアメンバーの入れ替わりはほとんど無く、利用者とも馴染みの関係が築かれており、様々な活動を通じ、喜怒哀楽を共にし、支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや意向の把握については、日常会話の中から日々聞き取り、要望に沿ったケアが図られている。また、意思表示が困難な方には、利用者の立場に立ち考えられるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成前のアセスメントにおいては、センター方式を用い、真に利用者が望むことを抽出されている。プラン作成の際には、本人の要望を最優先した長期目標を設定し、その中で特に重要とする項目を短期の目標に掲げている。本人の要望以外にもご家族の要望も聞き取り、総合的な援助方針を打ち出している。	○	ホームでは適切なケアマネジメントが図れており、充実したケアプランが作成されている。しかしながら、作成日等の日付が抜けている箇所が何箇所か見受けられたことから、再度見直しし、修正されることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの見直しについては、毎月実施される会議の場でカンファレンスを実施し利用者の状況に応じて毎月見直しがされている。また、「介護実践計画書」において日々プランを評価し目標に対する達成状況を確認している。全体的な見直しも定期的に変更され、現状に即したプランのもと日々支援されている。		

グループホーム光ヶ丘の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの多機能性を活かした支援については、現在方向性を検討中である。しかしながら、町内行事の参加やボランティアとの交流の充実など地域との交流は昨年度と比較し充実されてきている。	○	開設し5年が経過し、地域に根ざしたホーム運営が図られてきていることから、今後はホームの持つ専門性が少しずつ地域に還元されていくことに期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が適切な医療を受けられるように、ホームでの往診を希望する場合には2週間に一度の診察が可能である。また、入居前までのかかりつけ医を継続利用することも可能であり、本人及びご家族の希望を大切に適切な医療を受けられるよう体制を整えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針の共有については、ホーム側で「看取りに関する指針」、「医療連携体制加算同意書」を作成しご家族へ説明することで、ホームとしての方針を確実に伝えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対しプライバシーを損ねるような声かけにならないように、トイレ誘導時の声かけについても羞恥心に配慮して対応するほか、自分自身言われて傷つくことは利用者に対しても言わないようにするなど、日頃から注意を払い不適切な対応につながらないよう取り組まれている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの一日の流れは、特に日課を定めることなく、利用者の希望やペースに沿った支援を図っている。また、外出の際にも利用者の希望を尊重されている。		

グループホーム光ヶ丘の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備については、利用者と一緒に取り組むほか、座ったままできる作業を手伝って頂くなど、利用者の参加を促している。また、外食会の実施やお弁当を持参して公園まで出かけるなど、ホーム外での食事も取り入れ、楽しいひと時となるよう取り組まれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については、週2日入浴日を定め入浴時間については日中を中心に利用者の希望やタイミングに合わせて支援されている。入浴を拒否する方については翌日に入浴して頂くなど無理強いすることなく一人ひとりのペースに合わせて支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、踊りや習字のボランティアの方を受け入れ、昔を思い出して頂くような活動を実施するほか、外出活動を多く取り入れ、買い物やウィンドウショッピングを楽しむなど、様々な活動を通じ、楽しみ事、気晴らしの支援につなげている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム内での活動同様、戸外での活動も充実している。散歩や買い物は毎日のように実施するほか、外食会やピクニック、車での日帰り旅行など、外出行事を盛んに実施されており、ホーム外における活動を充実させることで、利用者の生活の幅を広げている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯については安全面を考慮し施錠されているが、日中においては、鍵をかけないケアの実践に取り組まれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	突発的な災害に備え、避難訓練については消防署の指導のもと年2回実施し、通報、避難、消火器の使用方法について訓練されている。また、運営推進会議を活用し、地域の方の協力を依頼している。		

グループホーム光ヶ丘の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養バランス、水分量が一日を通じてバランス良く確保できるように、それぞれの摂取量について記録に残し情報を職員間で共有している。食事形態については、お粥食、刻み、ミキサー食など状態に応じて対応を図り必要量摂取できるよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中利用者が集まるリビングには、季節の花や壁飾り、行事の写真の掲示など、各ユニットにおいて利用者が落ち着ける空間となるよう工夫を凝らしている。また、天井に設置したエアコンの風が直接利用者にあたらないようルーバーで対応されている。トイレや浴室についても清潔を保つほか、転倒の危険になるものは放置せず安全性にも配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内においても、利用者が居心地良く過ごせるように、これまで使い慣れた愛用品の持ち込みを可能としている。居室内の配置については、ご家族および利用者の希望を取り入れ、居心地良く利用できるよう努めている。		